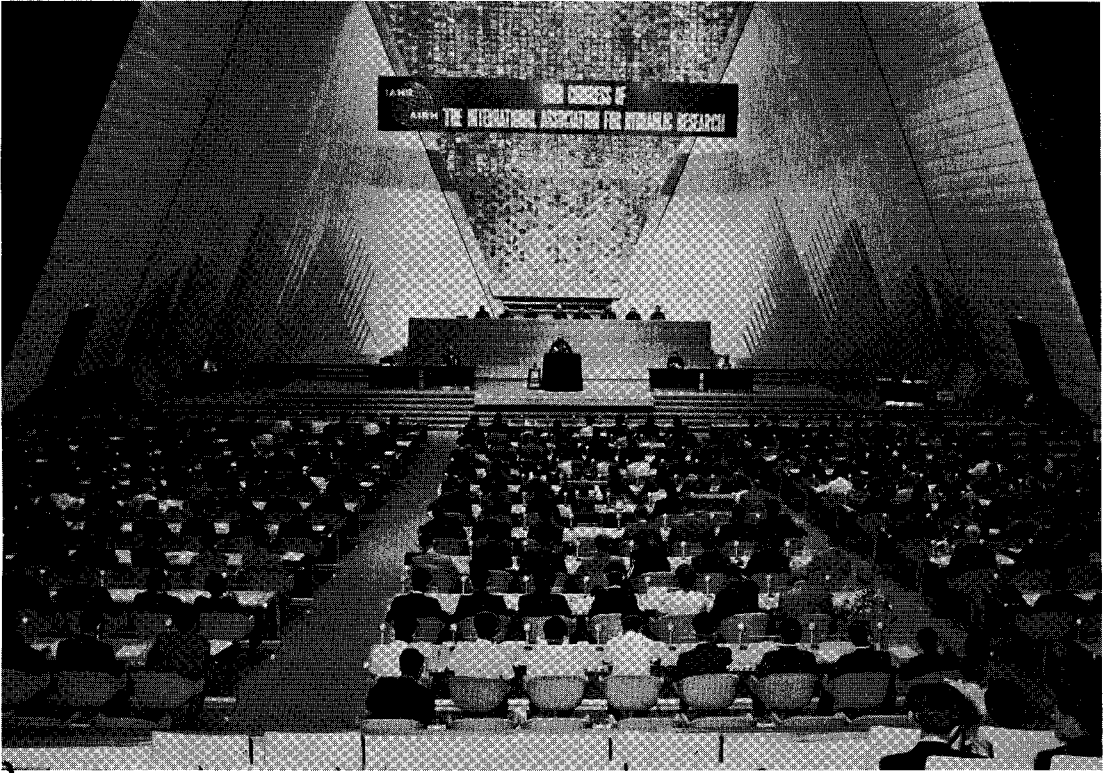
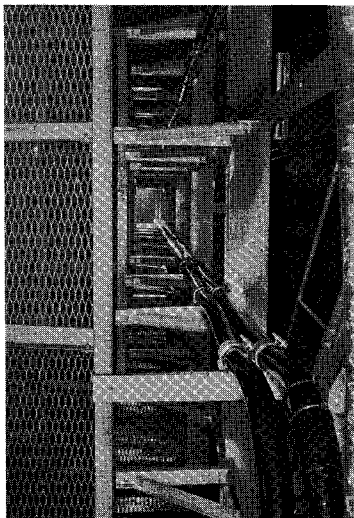
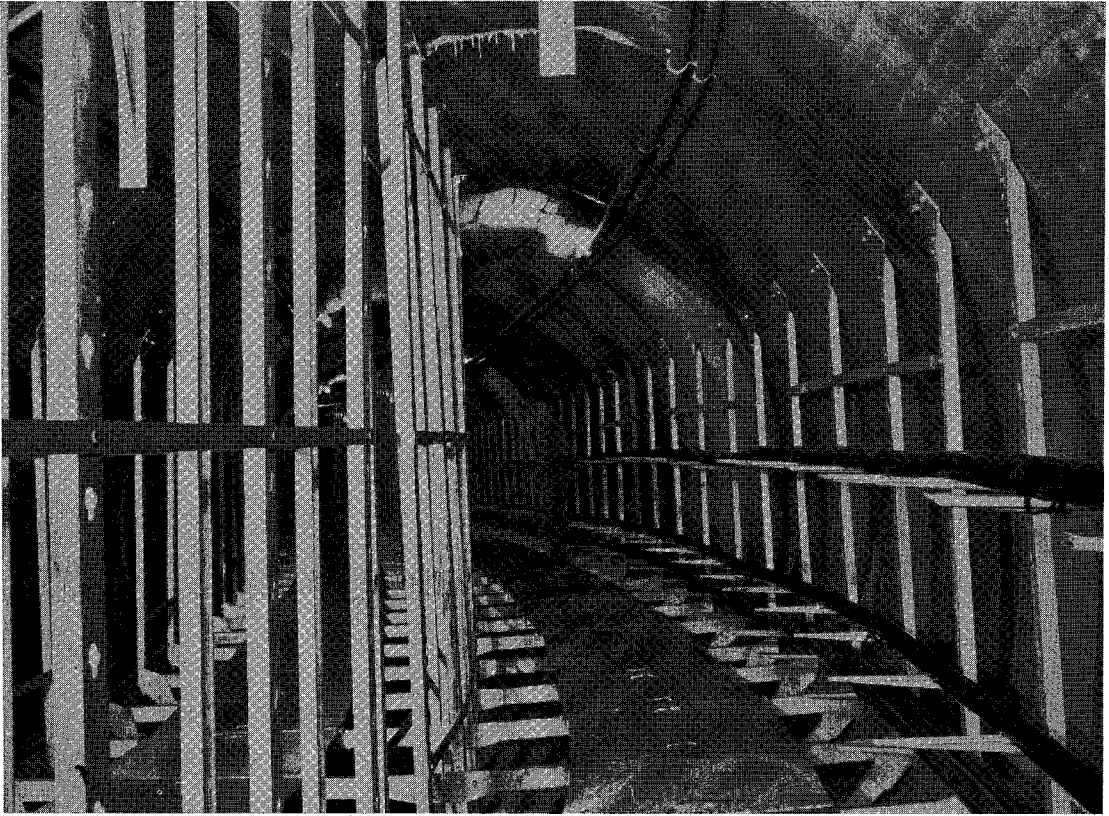


第 13 回国際水理学会会議挙る



第 13 回国際水理学会会議が、本年 8 月 31 日から 9 月 5 日にかけて日本学術会議の主催により国立京都国際会館で開催された。今回の会議にはわが国から 340 名（うち婦人 9 名）、外国から 223 名（うち婦人 46 名）の参加者があり、会議終了後は 4 コースに分かれ 9 月 11 日まで見学旅行を楽しんだ。会議は、特別講演 3 件、提出論文 208 件、一般報告者 26 名、Seminar Communications 論文 53 件を数え盛大をきわめた。写真は開会式全景と、開会式であいさつする左から石原藤次郎組織委員長、江上不二夫日本学術会議会長、奥田 東・京大総長、J.W. Daily IAHR 会長の各氏である。なお、詳細はおって掲載の予定である。

第 2 丸の内電話局洞道完成



東京における通信の急激な需要の伸びに対処するため、昭和 42 年着工した東京都千代田区大手町～中央区本石町を結ぶ洞道がこのほど完成し、ケーブルが引き込まれた。この区間は、国鉄、首都高速道路、河川などの横断、および新総武線、地下駐車場、首都高速道路などの将来計画とも関連したため、東京礫層を圧気式シールド工法により、 $R = 25 \text{ m}$ の曲線区間を含む $70/1000$ の下り勾配で掘進した。到達立坑は深度 $GL - 25 \text{ m}$ に達し、ケーソン工法で施工され、完成後はケーブル垂直引込部として、下の写真のように利用されている。洞道の規模は、内径 3800 mm 、長さ 260 m 、ケーブル収容条数 160 条、2 連式洞道である。

内容・主旨紹介

今月号の登載記事の要旨を記してあります。切り取ってパンチカードにはりつけて整理に供して下さい。

工事計画設計積算に関する若干の問題／増山辰夫

土木学会誌第 54 巻第 9 号, pp. 2~6, 昭和 44 年 9 月, September 1969

土木工事は研究上の諸々の問題をかかえているほか、経済性に関与する使命を荷っている。ここにおいて、工事実施上の技術関係の中核的業務として重要な機能を果たす計画設計積算は当然これらの問題に含まれてくる。本文は、これらの業務の現状と将来の方向について批判と検討すべき問題と思われるものを若干述べたものである。ただし、筆者は現業に直接タッチしておらず、会計検査に携わる者であるので、経理批判に偏った内容とも受け取れる面も若干ある。

積算の合理化／長尾 満

土木学会誌第 54 巻第 9 号, pp. 7~11, 昭和 44 年 9 月, September 1969

土木工事施工に際して、専門化され研究しつくされていると考えられている積算業務の中にも、改善・合理化すべき多くの要素が内包されている。しかし、この問題はいずれも土木工事の特性を理解しないことには本質的な説明は期待できないということから、難問とされている。本文は、この辺の事情に鑑み、土木工事の特性について解説を加え、それと対比して現在の積算の問題点を指摘し、その合理化への諸言に対し考察を加えたものである。

品質管理方式をとった物品の製作請負契約／藤戸竜爾・田島二郎

土木学会誌第 54 巻第 9 号, pp. 12~18, 昭和 44 年 9 月, September 1969

昭和 44 年 1 月から、国鉄は従来行っていた「重要な物品を調達するときの製作監督」をやめ、その代り「国鉄の要求する品質管理を契約条件としてメーカーが行ない、国鉄はその実施状況を審査することによってこれに代える」方式をとるに至った。国鉄全調達物品の 60% を占める多くの物品が対象となる本契約の背景と主旨を述べたものが本文である。

万国博会場周辺の交通事情／米谷栄二

土木学会誌第 54 巻第 9 号, pp. 19~23, 昭和 44 年 9 月, September 1969

史上最大の規模と、東洋で最初に開催されることで話題を呼んでいる万国博は、昭和 45 年 3 月 15 日から 9 月 13 日まで大阪府千里丘陵に建設中の会場で開かれることになっている。本建設工事は現在鋭意進行中であるが、本文は特に本博覧会場周辺の交通事情について各方向から考察し、期間中の交通の状況を想定している。

本州四国連絡鉄道道路併用橋の調査／田中行男、野口 功

土木学会誌第 54 巻第 9 号, pp. 24~29, 昭和 44 年 9 月, September 1969

土木学会の技術調査報告書が出てから久しいが、その後日本鉄道建設公団が鉄道道路併用橋について調査・研究を重ねた経過と調査の概要を記したのが本文である。本文は、はじめに、本四連絡橋に関する調査経緯、鉄道道路併用橋、上部構造に関する調査、基礎構造調査、あとかぎの 6 編からなっている。

シールド掘削にともなう沈下解析／半谷哲夫・中井善人・山口良雄・福地善明

土木学会誌第 54 巻第 9 号, pp. 30~35, 昭和 44 年 9 月, September 1969

最近シールド工事は各所で盛んに実施されるようになってきたが、シールドセグメントにかかる土圧について種々考察されている反面、シールドに伴う地盤沈下はあまり研究されていない。本文は東京、大阪における実測例を対象として、これに有限要素法を適用しシールド掘削に伴う沈下量を求めたものの報告である。

最新刊

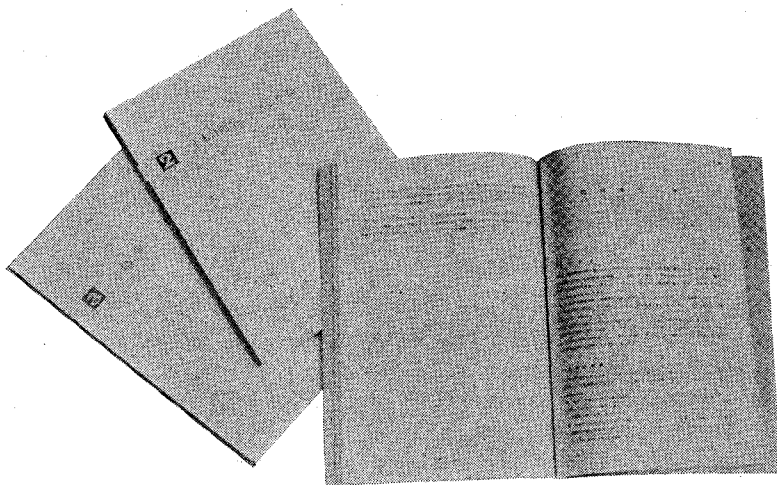
土木計画学講習会テキスト 2 B5判・152頁 1200円

調査計画法—特に標本調査法について—(河上省吾) 情報の抽出と予測(中村慶一) 土木計画のための線形計画法(吉川和広) バイパス計画の実際例—国道3号線福岡バイパスの場合—(稲見俊明) 水資源計画の手法(佐々木才朗)

土木計画学講習会テキスト 1 B5判・122頁 800円

土木計画問題のシステム化—ネットワークシステムを例にとって(吉川和広) 調査方法および資料整理(高橋裕) 道路計画の基礎資料(山根孟) 将来予測の一般論(加藤晃) 港湾の整備計画(高田陸朗) 都市用水需要の将来予測(首藤和正)

土木計画学研究委員会では現在までに3回のシンポジウムを開催し多くの成果をあげております。下記はそれぞれの資料でまだ多少の残部がありますのでお申込みください。



❶ 土木計画学シンポジウム B5判・134頁 700円

❷ 土木計画学シンポジウム B5判・120頁 700円

❸ 土木計画学シンポジウム B5判・132頁 700円

郵便番号 160

東京都新宿区四谷1丁目

電話 351-4131(直)

振替 東京16828



土木学会

興津トンネルのひずみ測定試験の報告・解析／高木 薫

土木学会誌第 54 巻第 9 号, pp. 36~43, 昭和 44 年 9 月, September 1969

本文は、東名高速道路興津トンネル工事現場において 1966 年 8 月から 1967 年 2 月までの約 7 カ月間にわたって実測したひずみ測定の結果とその解析の報告である。内容は、1. トンネル工事とひずみ測定の概要、2. 測定値の整理と計算および図化、3. 鋼支保工の測定ひずみ度と応力度の解析、4. コンクリート覆工のひずみと応力の解析、5. 結論、の 5 編からなっている。

最近の岩盤力学の動向／土木学会岩盤力学委員会・岡本舜三

土木学会誌第 54 巻第 9 号, pp. 44~49, 昭和 44 年 9 月, September 1969

本文は、土木学会岩盤力学委員会誕生の経緯から筆をおこし、岩盤力学に関する最近の話題を収めた委員会報告である。内容は、1. 緒言、2. 岩盤力学に関連した内外の組織、3. 岩盤力学に関する研究の動向、4. 岩盤力学の将来の課題、5. むすび、の 5 編からなっている。

第 4 回世界地震工学会議報告／後藤尚男

土木学会誌第 54 巻第 9 号, pp. 50~54, 昭和 44 年 9 月, September 1969

1969 年 1 月チリー・サンチャゴ市で開催された第 4 回世界地震工学会議 (Fourth World Conference on Earthquake Engineering, VI WCEE) に出席した筆者の手になる国際会議報告である。本文は、本国際会議の主な研究テーマと土木分野の者が知っておくべき点について土木学会第 10 回地震工学研究発表会で報告したものを中心にとりまとめたものである。

八郎瀉物語／出口勝美

土木学会誌第 54 巻第 9 号, pp. 55~58, 昭和 44 年 9 月, September 1969

今春一応完了した八郎瀉干拓の国営工事に参画した筆者が、本工事でつわる種々の話題を随筆風にとりまとめたのが本文である。第 2 位から第 16 位に、国づくり——村づくり、干拓新村——大湯村、八郎太郎の心境、八郎瀉の考古学、干拓地の土地、の 6 編からなっている。

母国の土木事情と日本 (その 1)／土木学会関西支部

土木学会誌第 54 巻第 9 号, pp. 59~66, 昭和 44 年 9 月, September 1969

ときに応じて海外の話題にはこと欠かかない近日であるが、外国人自身が筆をとり、自国と日本の対比のうえで土木工学の現況等にふれたものは数少ない。本号と第 10 号に分けて掲載する「母国の土木事情と日本」は、この意味で貴重である。その 1 には「中国 (台湾) の土木事情と日本」(宋 永焜) と「タイのかんがい排水」(Thavatchai Satrusjang) の 2 編を収録した。

日本の土木技術

100年の発展のあゆみ

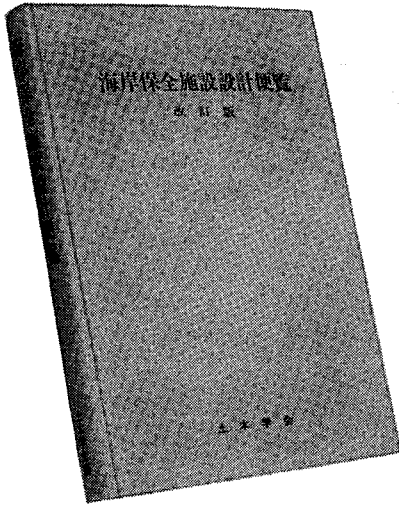
第二版発売中 上製箱入

A 5・490 ページ 1200 円 千 110 円

●お申込みは土木学会へ……一括注文は御相談ください●

土木学会が創立 50 周年 (1964 年) を記念して出版した土木技術史で、若い技術者とくにこれから土木工学の真髄をきわめようとする学生諸君のためには絶好の読物といえる。

I 土木技術と国土の開発 II 水の利用と水との戦い III 交通路の整備 IV 都市の建設 V 材料の進歩と構造技術の進展 VI 基礎技術の進歩 <年表および索引つき>



昭和32年以来、丸12年ぶりに全面改訂された決定版。36名におよぶ執筆者が、それぞれ得意な分野を手分けして執筆。とくに現場に役立つよう設計施工面に重点をおいて記述す

B5判 304ページ上製

■定価 2300円

□会員特価 2000円
(〒100円)

郵便番号 160

東京都新宿区四谷1丁目

電話 351-4131(直)

振替 東京16828

土木学会

土木学会海岸保全施設設計便覧改訂小委員会編

海岸保全施設設計便覧 改訂版

主要目次

第1章 海岸における水理現象

第1節 概論 第2節 波の概説 2.1 波の種類 2.2 波の発達 2.3 波の進行に伴う変化 第3節 深海波 3.1 深海波の性質 3.2 深海風波の推定法 第4節 浅海波 4.1 浅海の進行波の性質 4.2 屈折 4.3 回折 4.4 反射 4.5 重複波 4.6 海底摩擦 4.7 碎波 第5節 波力 5.1 重複波の波圧 5.2 碎波の圧力 5.3 碎波後の波の波圧 5.4 水中の物体に作用する波力 5.5 波力に対する捨石斜面の安定 5.6 波のうちあげ高 5.7 越波量 第6節 潮位 6.1 天文潮 6.2 気象潮 第7節 津波 7.1 津波の発生と伝播 7.2 陸棚上および湾内津波と津波の遡上 7.3 わが国での津波 第8節 流れ 8.1 海流 8.2 潮流 8.3 密度流 8.4 風および波による流れ 第9節 漂砂 9.1 概説 9.2 海岸地形と漂砂 9.3 漂砂量 第10節 飛砂 10.1 概説 10.2 飛砂量

第2章 海岸調査

第1節 気象観測 1.1 概説 1.2 風の観測 第2節 波の観測 2.1 概説 2.2 波高、周期の観測 第3節 漂砂の調査 3.1 概説 3.2 調査法 第4節 土質調査 4.1 概説 4.2 調査法 第5節 流れの観測 5.1 概説 5.2 観測法

第3章 設計法

第1節 概論 1.1 海岸工事概説 1.2 高潮対策 1.3 埋没および侵食対策 第2節 材料 2.1 アスファルト 2.2 鋼材 2.3 矢板 2.4 コンクリート 2.5 木材 2.6 石材 第3節 消波工 3.1 消波工の定義 3.2 異形ブロックの発生 3.3 異形ブロックの安定 3.4 消波工の特長 3.5 消波工の設計 3.6 施工、実施例 第4節 堤防と護岸 4.1 種類 4.2 位置 4.3 のり勾配 4.4 高さ 4.5 構造 4.6 例 第5節 突堤と離岸堤 5.1 概要 5.2 突堤 5.3 離岸堤 第6節 導流堤 6.1 河口閉塞 6.2 導流堤の機能 6.3 配置 6.4 構造と実例 第7節 養浜 7.1 概説 7.2 施工法の種類 7.3 計画上の注意事項 7.4 施工例 第8節 防潮水門 8.1 概説 8.2 計画上の基本事項 8.3 計画および設計指針 8.4 設計 第9節 特殊海岸工事 9.1 概説 9.2 海岸の排水工 9.3 水質の改良保全工 付表 索引 資料広告

会 告

社団法人 土 木 学 会

行事案内	月 日	行 事 名	場 所	備 考
本 部	9月26日(金)	全国大会・第24回年次学術講演会 第5回トンネル工学に関する シンポジウム 第16回海岸工学講演会	東 京	8号会告2頁参照
	9月28日(日)		東 京	9号会告2 "
	11月26日(水)		大 阪 市	9号会告4 "
北海道支部	9月19日(金)	秋季見学会	釧路地区	9号会告8 "
	10月17日(金)	同	札幌地区	9号会告8 "
関東支部	11月28日(金)	「東京外環状線」見学会 「土留工法」講習会	東 京	9号会告8 "
	12月3日(水)		東 同	9号会告9 "
中部支部	9月19日(金)	第2回見学会	三 重 県	9号会告9 "
関西支部	9月19日(金)	第2回見学会	大 阪 市	8号会告8 "
	10月18日(土)	第1回学生見学会	大 阪 府	9号会告11 "
	10月24日(金)	琵琶湖周辺の諸問題に関する講演会	大 津 市	9号会告9 "
	10月25日(土)	第2回学生見学会	京 都 市	9号会告11 "
	11月8日(土)	第3回学生見学会	大 阪 市	9号会告11 "
	11月25日(火)	若い会員懇親パーティ	大 阪 市	9号会告10 "
	11月25日(火) ～26日(水)	講習会「土木工事における土中水のあつかい方」	大 阪 市	9号会告8 "
そ の 他	9月18日(木)	日本工学会第26回見学会	東 京	7号会告5 "
	10月3日(金) ～4日(土)	第19回応用力学連合講演会	東 京	8号会告7 "
	10月8日(水)	鋼グイ講習会	東京ほか	9号会告7 "
	10月13日(月)			
	10月14日(火)			
	10月15日(水)			
	10月17日(金)			
10月19日(水)	土木学会	9号会告6 "		
11月28日(金)			第10回構造の軽量化に関するシンポジウム	
お 知 ら せ	■論文報告集投稿要項の一部改正について			9号会告3 "
	■欧文論文集の刊行について			9号会告3 "
	■第6回衛生工学研究討論会論文募集			9号会告3 "
	■構造物またはその構成要素の終局強度に関する研究発表会論文募集			9号会告3 "
	■第6回岩盤力学に関するシンポジウム講演募集			9号会告6 "
	■第14回水理講演会講演募集			9号会告6 "
■研究発表会論文・報文募集(北海道支部)			9号会告8 "	

映画試写会開催について

土木学会視聴覚教育委員会では、毎月第2土曜日に映画試写会を行なっておりますので、多数お誘い合せの上ご観賞下さいませようご案内致します。

記

- 場 所：土木図書館講堂（東京都新宿区四谷一丁目 国電・地下鉄四ツ谷駅下車）
- 日 時：毎月第2土曜日 14.00～17.00 10月は11日(土)です。
- 上映映画：「都市と下水道」「利根を制す」「よみがえる汚水」衛生工学関係の映画を予定しております。
- 参加費：無料、土木関係以外の方も歓迎致します。

第5回トンネル工学に関するシンポジウム

◀ 11月26日(水)~27日(木) ▶

土木学会トンネル工学委員会では今秋完成を目途にトンネル標準示方書の改訂、およびシールド工法指針の制定に鋭意努力を重ねており、これを機会に下記により第5回トンネル工学に関するシンポジウムを開催することに決定致しました。

このシンポジウムには、これらの説明会のほか現在、わが国で設計・施工されたトンネル工事の実情の紹介も加えて実施いたします。

当シンポジウムは、今後わが国における斯界進展のため寄与するところ大であると思われるので、関係方面の多数の研究者、技術者のご参加を希望します。

1. 期 日：1969年11月26日(水)、27日(木)の2日間
2. 会 場：財団法人社会文化会館(地下鉄(丸ノ内線)：「国会議事堂前」下車、国会図書館の斜め前 TEL (580) 1171)
3. 参加費：会 員 4000円・非会員 5000円(テキスト代を含む)
4. テキスト：トンネル標準示方書解説(改訂版)、シールド工法指針、トンネル工学シリーズ6
5. 申込方法：氏名、勤務先、連絡先明記のうえ、会費を添えてなるべく現金書留で土木学会事業課宛(新宿区四谷一丁目)11月10日までにお申込み下さい。定員がありますので満員の際はお断りすることがありますことを、あらかじめご了承下さい。
6. 題目・講師および日程：(○印は講演者、講演時間は質疑応答の時間を含む)

第1日：11月26日(水)

9.30~9.40 (1)	開会挨拶	トンネル工学委員会委員長	藤井松太郎
9.40~9.50 (2)	示方書改訂の主旨について	株式会社大林組	坂本貞雄
9.50~10.20 (3)	調査編の改訂について	東京大学生産技術研究所 建設省土木研究所	丸安隆和 ○芥川真知
10.20~10.50 (4)	設計編の改訂について	建設省土木研究所千葉支所	伊吹山四郎
10.50~11.20 (5)	施工編の改訂について	日本鉄道建設公団	足立貞彦
11.20~12.00 (6)	六甲トンネルの破砕帯突破について	国鉄山陽新幹線工事局	高山昭
12.00~13.00	昼食・休憩		
13.00~13.40 (7)	隧道掘さくに伴う地表沈下の測定例について	国鉄建設局線増課 国鉄鉄道技術研究所	○島田隆夫 飯塚 全
13.40~14.20 (8)	牧の原地すべり地区のトンネル施工について	建設省中部地方建設局 同	金井弥太郎 同 保博 ○前田武雄
14.20~15.00 (9)	紅葉山線新登川トンネルの蛇紋岩区間の施工法と膨張土圧の測定結果について	日本鉄道建設公団 同 札幌支社 大成建設株式会社	○足立貞彦 重水 康 同 出 康
15.00~15.15	休 憩		
15.15~16.30 (10)	討論会：「わが国のトンネルボーリングマシンの現状」		
司会	国鉄山陽新幹線建設部 斎藤 徹 株式会社熊谷組 大塚本夫	出席者	日本道路公団恵那山トンネル出張所 小林一夫 日本鉄道建設公団吉岡鉄道建設所 進藤 卓 株式会社熊谷組金山作業所 鈴木和夫 建設省東北地方建設局 清水誠一 国鉄山陽新幹線工事局 峰本 守

第2日：11月27日(木)

9.30~9.40 (11)	シールド工法指針作成の経緯について	帝都高速度交通営団	西嶋国造
9.40~10.10 (12)	第1編「総論」について	東京都交通局 東京電力株式会社	○遠藤浩三 吉川新
10.10~10.40 (13)	第2編「覆工およびセグメント」について	東京都立大学工学部 早稲田大学理工学部	○山本稔智 村上博
10.40~11.10 (14)	第3編「シールド」について	国鉄東京第2工事局 三菱重工業株式会社	○小林正一 小竹秀雄
11.10~11.40 (15)	第4編「施工および施工設備」について	帝都高速度交通営団 株式会社熊谷組	○西嶋国造 田中壬子也
11.40~13.00	昼食・休憩		
13.00~13.40 (16)	羽田トンネルの沈埋工事について	日本鉄道建設公団	大平拓也
13.40~14.20 (17)	大阪地下鉄の沈埋工事——堂島川と道頓堀川の施工例について——	大阪市交通局 同	三好迪男 道田淳一
14.20~15.00 (18)	近鉄難波線の大型機械化シールドの施工例について	近畿日本鉄道株式会社	魏 哲 司
15.00~15.15	休 憩		
15.15~16.30 (19)	討論会：「シールド工法による地下駅的设计・施工」		
16.30~16.40 (20)	閉会挨拶	トンネル工学委員会幹事長	加納 俊 二

論文報告集投稿要項の一部改正について

論文集編集委員会では論文報告集のあり方について種々検討を行なっておりますが、本年より従来の欧文要旨を発展的に解消し、欧文論文集を刊行することになりましたので、昭和43年5月発表(学会誌第53巻5号4ページ参照)の投稿要項の「6. 要旨について:b) 欧文要旨①②③④」を全文削除します。すなわち、今後投稿される場合は欧文題目のみで、欧文要旨は必要としません。なお、新しい論文報告集の投稿要項については現在協議中ですので近くお知らせする予定です。

欧文論文集 (Transactions) の刊行について

土木学会論文集編集委員会では、先に会告でお知らせ致しましたように、論文集の名称を第161号より論文報告集(Proceedings)と改めました。この名称変更に伴い委員会では論文報告集のあり方について検討を行なうと同時に欧文論文集のあり方についても欧文論文集編集小委員会を組織し種々協議を重ねて参りました結果、わが国の学術論文の海外紹介を目的として、とりあえず今年度は論文報告集に掲載された論文・研究ノートを対象として欧文論文集を刊行することになりましたのでお知らせ致します。

初年度の内容としては、1) フルペーパーの欧文訳したものとしてか、あるいは2) 100~250ワードにまとめた欧文要旨としてのいずれかとして掲載するものとします。

なお、研究ノートについては原則として2)の形で掲載することとします。

頒布方法・価格などについては現在検討中ですが、欧文論文集購読ご希望の方は欧文論文集編集小委員会までがきでお知らせ下さい。

第6回衛生工学研究討論会論文募集

土木学会衛生工学委員会は、下記の予定で研究討論会を実施しますので、論文提出希望者をご応募下さいますようご案内いたします。

記

1. 主 催：土木学会衛生工学委員会
2. 期 日：1970年1月下旬
3. 場 所：土木学会土木図書館講堂(新宿区四谷1丁目無番地)
4. 論文内容：本年度は特別に課題を決めず自由課題とします。
5. 申込方法：10月末までに講演原稿を土木学会衛生工学委員会までご提出下さい。なお、原稿は学会指定のオフセット用原稿用紙(申込次第送付)を使用して下さい。原稿枚数は8枚までとし、期日以後は受付をお断りしますのでご注意下さい。
6. 申 込 先：土木学会衛生工学委員会(新宿区四谷1丁目)
7. 採 否：論文の採否は衛生工学委員会にご一任下さい。

構造物またはその構成要素の終局強度に関する研究発表会 ◀12月5日(金)▶ (第16回橋梁・構造工学研究発表会)

今年度は下記より、標記の研究発表会を開催いたします。論文採用の連絡のあった方は期日までに必ず原稿をご提出下さい。

1. 期 日：1969年12月5日(金)
2. 共 催：日本学術会議構造研究連絡委員会・土木学会・日本建築学会
3. 会 場：土木学会土木図書館講堂
 - (1) 論文内容：鋼、鉄筋コンクリート、プレストレストコンクリートあるいは鋼とコンクリートの合成された構造物またはこれらの構成要素の終局強度、耐荷性状に関する独創的な実験的、理論的研究を対象とする。
 - (2) 原稿締切：1969年10月15日(水)

第16回海岸工学講演会

◀ 12月11日(木)~12日(金) ▶

第16回海岸工学講演会は、つぎの日程により大阪市において開催致しますので多数ご参加下さるようご案内致します。

〈会場略図〉



1. 期 日：1969年12月11日(木)~12日(金)

2. 会 場：大阪科学技術センター(大阪市西区靱1丁目118番地/地下鉄3号線信濃橋下) 車北へ150m、靱公園北東角/電話443-5321番)

3. 共 催：土木学会海岸工学委員会・土木学会関西支部

4. 講演題目：○印は講演者，()内の数字は講演集掲載番号を示す。

第1日：12月11日(木) 第1会場

- 9.00~9.05 開会のあいさつ 土木学会海岸工学委員会委員長 岩 崎 敏 夫
- 9.05~9.20 ① 有限振幅浅水波の高次近似理論について 北海道工学部 ○佐伯 浩・泉 湧
- 9.20~9.25 ② セツ動解による有限振幅重複波理論の適用限界について 京都大学防災研究所 土屋 義人・山口 隆正
- 9.35~9.50 ③ 有限振幅波の水粒子速度に関する実験 京都工学部 岩垣雄一・京都大学大学院○酒井哲郎
- 9.50~10.05 ④ 波動による乱流境界層の発達 京都大学防災研究所 野 田 英 明
- 10.05~10.25 討 議 ①~④
- 10.25~10.35 休 憩
- 10.35~10.50 ⑤ 波起し機によって起した不規則波の特性 京都工学部 岩垣雄一・名古屋工業大学工学部○石田 昭
- 10.50~11.05 ⑥ 砕波の内部機構に関する基礎的研究(第1報)(砕波型にもとづく二、三の考察) 大阪大学工学部 榎木 亨・岩田好一郎・上野二
- 11.05~11.20 ⑦ 砕波帯の波の研究(2)(周波数スペクトルの平衡領域および2次元スペクトルの観測例) 九州大学工学部 井島武士・大分高専 ○松尾隆彦
- 11.20~11.35 討 議 ⑤~⑦
- 11.35~13.30 昼 食・休 憩
- 13.30~13.45 ⑧ ⑬ 大阪湾における台風時の波浪の数値計算 運輸省港湾技術研究所 合田 良実・○永井 康平
- 13.45~14.00 ⑨ ⑭ リレーを用いたステップ式波高計と波浪観測塔(2) 北海道開発局土木試験場 村木 義男・○高島 和夫
- 14.00~14.15 ⑩ ⑮ 超音波式波高計の開発について 運輸省港湾技術研究所 ○高橋知晴・鈴木禧実・佐々木弘
- 14.15~14.30 ⑪ ⑯ 表面波の近似的方向スペクトルの観測 運輸省港湾技術研究所 鈴木 禧 実
- 14.30~14.45 ⑫ ⑰ 小名浜港の波向解析 運輸省第二港湾建設局 ○赤塚 雄三・砂金 益美
トウジョウ・ウエザー・サービスセンター 進藤 勉・円城寺明風
- 14.45~15.10 討 議 ⑧~⑰
- 15.10~15.20 休 憩
- 15.20~15.35 ⑬ ⑱ 相模川河口の堆積土砂量について 神奈川県企業庁総合開発局 広 田 純 也
- 15.35~15.50 ⑭ ⑲ 環砂海岸における港口埋設防止対策について 水産庁漁港部 佐藤稔夫・農林省農業土木試験場 ○三橋宏次
- 15.50~16.05 ⑮ ⑲ 河口水位変化に及ぼす導流堤の効果について(河口閉塞機構に関する基礎的研究,第4報) 大阪大学工学部 ○榎木 亨・小船 浩二
- 16.05~16.20 ⑯ ⑳ 千葉県屏風ヶ浦の海岸侵蝕について(航空写真による海蝕崖の後退に関する研究,第2報) 東京大学工学部 堀川 清司・○砂村 健夫
- 16.20~16.35 ⑰ ㉑ 重複波による底質の浮遊濃度について 中央大学理工学部 服 部 昌 太郎
- 16.35~17.00 討 議 ⑱~㉑

第2日：12月12日(金) 第1会場

- 9.00~9.15 ⑯ ⑧ 波の上の風の性質に関する実験的研究 運輸省港湾技術研究所 加藤 始・○佐野喜久雄
- 9.15~9.30 ⑰ ⑨ 風波のスペクトルの発達 九州大学応用力学研究所 光易 恒・中山 龍三
- 9.30~9.45 ⑱ ⑩ 浅海風波の発達に関する実験的研究 台湾成功大学 湯 麟 武・○郭 金 棟
- 9.45~10.00 ㉒ ⑪ 浅海風のスペクトルについて一実験的研究 台湾成功大学 ○郭 金 棟・沙 陽 生・陳 茂 松
- 10.00~10.15 ㉓ ⑫ 大湾海岸における波浪の変化について 京都大学工学部 岩垣雄一・立命館大学理工学部 ○楠沼忠男・運輸省港湾局 門司剛至
- 10.15~10.40 討 議 ⑱~㉓
- 10.40~10.50 休 憩
- 10.50~11.05 ㉔ 密度流の問題(4) 運輸省港湾技術研究所 浜 田 徳 一
- 11.05~11.20 ㉕ 二層流の表層流における変動速度について 運輸省港湾技術研究所 金 子 安 雄
- 11.20~11.35 ㉖ 淡水境界面付近の乱れ測定 東北大学工学部 岩崎 敏夫・○阿部 至雄
- 11.35~11.50 討 議 ㉔~㉖
- 11.50~13.00 昼 食・休 憩
- 13.00~13.15 ㉗ 外洋に面した沿岸部での温水放流に伴う海水温分布の一实例 日本原子力発電KK 大西 外明・○小西 勇
- 13.15~13.30 ㉘ 湾内における物質の拡散(その2) 運輸省第二港湾建設局 堀口孝男・石塚修次・○横田基紀
- 13.30~13.45 ㉙ 汚染物質拡散の数値解法について 運輸省第二港湾建設局 堀 口 孝 男
- 13.45~14.00 ㉚ 水理模型実験による廃水拡散の研究(II)(東京湾の流況についての二、三の考察) 工業技術院資源技術試験所 江村富男・○鬼塚正光・深尾 浩・太田一之・山口交男
- 14.00~14.15 ㉛ 二成層潮沙モデルによる工業用水取排水問題の展開 電力中央研究所 和 田 明

14.15~14.40	討 議 ⑳~㉑	
14.40~14.50	休 憩	
14.50~15.05	㉑ 河口の流れの構造 (2)	北海道大学工学部 ○柏村 正和・吉田 静男
15.05~15.20	㉒ 筑後川河口の淡水混合と浮泥の濃度分布について	農林省農業土木試験場 満 田 雅 男
15.20~15.35	㉓ 石狩川河口の研究 (5)	北海道大学工学部 福島久雄・○八織 功・高橋 将・大谷守正
15.35~15.50	㉔ 穴道湖・中海の塩分分布特性	京都大学農学部 南 勲
15.50~16.05	㉕ 成層密度流体からの選択取水に関する実験 (層分離現象と中層取水)	東京工業大学工学部 日野 幹雄・○古沢 恵
16.05~16.20	㉖ 冷却水取水設備設計に関連した海生物の問題	日本原子力発電KK ○大西外明・真鍋恭平・原 一利
16.20~16.50	討 議 ㉗~㉘	
16.50~16.55	閉会あいさつ	岩 崎 敏 夫

第 2 日 : 12 月 12 日 (金) 第 2 会場

9.00~ 9.15	㉗ 離岸堤の高さについて	建設省河川局 豊 島 修
9.15~ 9.30	㉘ 越波量におよぼす消波工の形状について	日本テトラポッドKK ○白石直文・建設省河川局 豊島 修・日本テトラポッドKK 遠藤泰司
9.30~ 9.45	㉙ 消波ブロックの抵抗について	中央大学理工学部 首 藤 伸 夫
9.45~10.00	㉚ 防波堤, 護岸に関する二, 三の設計例	運輸省第四港湾建設局 尾崎 重雄・○川上 善人
10.00~10.15	㉛ 海岸堤防の根固工に関する研究	建設省土木研究所 ○富永 正照・坂本 忠彦
10.15~10.40	討 議 ㉜~㉝	
10.40~10.50	休 憩	
10.50~11.05	㉞ 越波の飛散分布に及ぼす風の影響 (I) (風速と水平飛散分布)	中部工業大学工学部 高 田 彰
11.05~11.20	㉟ 直立消波岸壁に関する研究 (I) (水平板岸壁について)	九州大学工学部 ○井島武士・運輸省第四港湾建設局 尾崎重雄・大分高専 松尾隆彦・九州大学工学部 小林 章
11.20~11.35	㊱ シート型浮防波堤の消波効果について	農林省農業土木試験場 ○加藤重一・乃万俊文・森野静也
11.35~11.50	討 議 ㊲~㊳	
11.50~13.00	昼 食 ・ 休 憩	
13.00~13.15	㊴ 海岸構造物不連続部の波高分布について (第4報)	徳島大学工学部 ○三井 宏・筒井 茂明
13.15~13.30	㊵ 透過性構造物による波の変形に関する研究 (第1報) (鉛直捨石堤による波の反射率と透過率について)	建設省土木研究所 富永 正照・○坂本 忠彦
13.30~13.45	㊶ 透過性防波堤の伝達波	室蘭工業大学工学部 近 藤 徹 郎
13.45~14.00	㊷ 透過性防波堤の波高伝達率に関する実験的研究	東北大学工学部 岩崎 敏夫・○沼田 淳
14.00~14.15	㊸ 海洋構造物におけるジャケットの製作, 組立据付固定の限界精度について	海上保安庁灯台部 長 崎 作 治
14.15~14.30	㊹ 横波を受けるスーパータンカーの Drifting, Swaying および Rolling によってドルフィンに働く衝撃力に関する研究	大阪市立大学工学部 永井狂七郎・○小田一紀・日立造船 重藤宗之
14.30~15.00	討 議 ㊺~㊻	
15.00~15.10	休 憩	
15.10~15.25	㊼ 津波造波装置について	京都大学工学部 岩垣雄一・京都大学防災研究所 土屋 義人・○中村 重久
15.25~15.40	㊽ 瀬上津波先端の境界条件と計算法	東北大学工学部 岩崎 敏夫・○富樫 宏由
15.40~15.55	㊾ 津波防波堤の効果について	東京大学工学部 堀川 清司・○西村 仁嗣
15.55~16.10	㊿ 湾内津波の計算	東北大学工学部 岩崎 敏夫・楊 澤民
16.10~16.25	㊽ 河川潮沙の研究 (第2報)	東海大学海洋学部 宇 野 木 早 苗
16.25~16.50	討 議 ㊾~㊿	

5. 見学会:

- (1) 期 日: 1969 年 12 月 13 日 (土) 9.30~14.50
- (2) コース: 9.30 国鉄三宮駅南側駐車場集合・出発 → 高倉山土砂採取現場および須磨積出棧橋 → 中突堤 (昼食・説明会) → 港内見学 → メリケン波止場 → 国鉄三宮駅解散 14.50
- (3) 参加費: 500 円 (含食事代)
- (4) 定 員: 50 名

6. 懇親会

今回は会費制で行ないますので参加ご希望の方は, 下記によりお申込み下さい。

- (1) 期 日: 1969 年 12 月 11 日 (木) 18.00 時から
- (2) 会 場: 大阪科学技術センター
- (3) 会 費: 1 000 円
- (4) 定 員: 100 名

7. 申込方法: 見学会, 懇親会に参加ご希望の方は, 氏名, 勤務先, 連絡先を明記のうえ, 参加費を添えて 11 月 30 日までに下記へお申込み下さい。定員がありますので参加多数の場合は申込受付順と致しますのでご了承下さい。

8. 懇親会 見学会申込先: 郵便番号 160 東京都新宿区四谷 1 丁目 土木学会海岸工学講演会係

第6回岩盤力学に関するシンポジウム講演募集

第6回岩盤力学に関するシンポジウムを下記により開催いたしますので、講演ご希望の方は、ふるってご応募下さい。

1. 期 日：1970年2月5日(木)～6日(金)
 2. 会 場：土木学会土木図書館講堂
 3. 主 催：土木学会岩盤力学委員会
 4. 講演申込要項：
 - (1) 内 容：岩盤力学に関する理論、実験、測定等(ダム、トンネル、爆破等への応用例も含む)
 - (2) 講演申込締切期日：1969年11月10日(月)
 - (3) 申 込 先：郵便番号160 東京都新宿区四谷1丁目 土木学会岩盤力学委員会
 - (4) 申込要領：講演題目、講演者氏名(連名の場合は登壇者に○印をつける)、勤務先、連絡先を明記のうえ、400字程度の内容梗概を付けてお申込み下さい。
 - (5) 講演原稿締切期日：1969年12月15日(月)
- 注：1. 講演時間は、1件討議を含め30分程度の子定です。
2. 講演の採否、その他については、岩盤力学委員会にご一任下さい。
3. 講演者には、当学会所定の様式にしたがって、講演原稿をご提出していただきます。

第14回水理講演会講演募集

第14回水理講演会を下記により開催いたしますので、講演ご希望の方はふるってご応募下さい。

1. 期 日：1970年2月13日(金)～14日(土)
2. 会 場：発明会館(東京都港区芝西久保明舟町17番地、地下鉄虎ノ門下車徒歩3分)
3. 主 催：土木学会水理委員会
4. 課 題：A. 自由表面を有する、または有しない流れの中の輸送問題
B. 非定常流れによる力
C. 河床の変形—不均一粒径
D. 河口付近における土砂の問題
E. その他
5. 申込方法、その他：

10月30日までに講演題目、講演者氏名(連名の場合は登壇者に○印をつける)、勤務先、連絡先を明記し、土木学会水理委員会あてお申込み下さい。折り返し、当学会所定の原稿用紙をお送りいたします。
6. 講演原稿締切：1969年12月5日(厳守)

第10回構造の軽量化に関するシンポジウム

◀ 11月28日(金) ▶

標記のシンポジウムが関係9学協会の共催で開催されます。本シンポジウムに講演を申込まれた方は締切期日までに必ず原稿をご提出下さい。

1. 日 時：1969年11月28日(金)
2. 会 場：土木学会土木図書館講堂(東京都新宿区四谷1丁目)
3. 前刷原稿締切日：1969年10月15日(水)
4. 前刷原稿：前刷はゼロックス印刷するため、原稿は所定の原稿用紙(1443字詰)4枚以内(図表を含む写真不可)とする。

第 19 回応用力学連合講演会

◀ 10 月 3 日 (金) ~ 4 日 (土) ▶

例年のとおり、標記の講演会が、関係 9 団体の共催によって、下記要領で開催されます。プログラムをご希望の方は、土木学会総務課あてはがきでお申込み下さい。

1. 場 所：東京都勤労福祉会館（東京都中央区新富町 1-1-5）
2. 講 演：77 題
3. シンポジウム：13 題
4. 講演論文抄録：1300 円（予約申込みに限り送料学会負担）代金を添えて 9 月 20 日までに土木学会総務課あてお申込み下さい。

鋼グイ講習会

1. 主 催：社団法人 土質工学会・社団法人 鋼材倶楽部
2. 後 援：土木学会、ほか 11 団体
3. 開催期日および会場：

開催地	開催期日	会 場	会 場 住 所
東 京	10 月 8 日 (水)	社 会 文 化 会 館	東京都千代田区永田町 1-8-1
名 古 屋	10 月 13 日 (月)	中 電 ホ ー ル	名古屋市東区東新町 10
大 阪	10 月 14 日 (火)	(未 定)	(未 定)
広 島	10 月 15 日 (水)	広 島 県 合 同 庁 舎 講 堂	広島市上八丁堀
福 岡	10 月 17 日 (金)	電 気 ホ ー ル	福岡市渡辺通 2 丁目 1 街区 82 号
札 幌	11 月 19 日 (水)	北 海 道 建 設 会 館	札幌市北 4 条 西 3

4. 講習内容および講師

開催地	時間		講習内容		講師	
	9.30~10.30	10.30~12.00	13.00~13.50	13.50~14.40	14.50~15.40	15.40~16.30
	鉛直支持力	水平支持力	基礎底面における抵抗と設計法	腐 食	ネガティブフリクション	適 用 性
東 京	岸田英明 (建設省建築研究所)	吉田 巖 (建設省土木研究所)	黒正清治 (東工大工学部)	大崎順彦 (建設省建築研究所)	遠藤正明 (竹中工務店技研)	川崎孝人 (竹中工務店技研)
名 古 屋	西田義親 (金沢大学工学部)	林 聡 (運輸省港湾技研)	吉村元宏 (日本鋼管建材部)	大崎順彦 (前 掲)	遠藤正明 (前 掲)	榎並 昭 (日本大理工学部)
大 阪	西田義親 (前 掲)	林 聡 (前 掲)	吉村元宏 (前 掲)	大崎順彦 (前 掲)	柴田 徹 (京都大学防災研究所)	榎並 昭 (前 掲)
広 島	網千寿夫 (広島大学工学部)	藤田圭一 (前 掲)	吉村元宏 (前 掲)	大崎順彦 (前 掲)	竹中準之介 (大阪市大理工学部)	上野長八郎 (鹿島建設技研)
福 岡	藤田圭一 (間組技術研究所)	横山幸満 (日本鋼管建材部)	吉村元宏 (前 掲)	大崎順彦 (前 掲)	山肩邦男 (京都工繊大工学部)	掛貝安雄 (久米建築事務所)
札 幌	小泉安則 (建設省建築研究所)	宮島信雄 (八幡製鉄 相模原研究室)	吉村元宏 (前 掲)	大崎順彦 (前 掲)	遠藤正明 (前 掲)	長谷川幸也 (八幡製鉄 相模原研究室)

5. テキスト：土質工学会発行・ライブラリー第 6 巻“鋼グイ”(A5 判、約 370 ページ)
定価：会員 1000 円、非会員 1300 円、ただし、講習会当日に限り、会員 800 円、非会員 1050 円
6. 講習会費：会員 500 円、非会員 750 円
7. 申込み方法：土質工学事務局、および当日会場にて受付
8. 申込み先：東京都港区西新橋 1 の 13 の 5 東亜別館 社団法人 土質工学会 電話 502-6256~8

北海道支部行事案内 (郵便番号 060 札幌市南 1 条西 2 丁目・勸銀ビル 5 階 電話 0122-25-7038)

(1) 年次 研究発表会論文・報文募集

標記の原稿をつぎの要領で募集いたします。

1. 発 表：1970 年 2 月 27 日 (金) 札幌市民会館で口頭発表のほか、事前に“論文集第 26 号”として本印刷刊行配付する。
2. 内 容：土木工学・土木技術・工事報告文など。
3. 応募方法：支部事務局へ文書または電話でお申込みのこと。申込みにより所定の原稿用紙と起稿要領などを急送します。
4. 応募資格：北海道支部所属の会員を原則とします。
5. 申込締切：10 月末日
6. 原稿締切：11 月 20 日厳守；締切期日を過ぎたものは、印刷日程の都合上受理できませんのでご承知おき下さい。
7. 支部奨励賞の授与：応募論文は、選考のうえ、賞状賞金、メダルを支部総会で表彰授与とされる。

(2) 秋 季 見 学 会

I. 釧路 (阿寒) 地区

1. 期 日：1969 年 9 月 19 日 (金) 日帰り
2. 集 合：釧路駅前 出発 9 時
3. 見学コース：釧路鶴居手子屈 (北斗地区道路改良工事)～摩周湖～(美幌峠道路改良工事)～阿寒湖～(清水沢橋工事)～釧路帰着 17 時

II. 札幌 (支笏湖・中山峠) 地区

1. 期 日：1969 年 10 月 17 日 (金) 日帰り
2. 集 合：札幌大通テレビ塔下 同出発 9 時
3. 見学コース：恵庭岳オリンピック施設工事～支笏湖畔～美笛トンネル～喜茂副～中山峠 (道路改良工事)～定山溪 (豊平峡ダム)～札幌帰着 17 時

◎ 参 加 要 領

- ① 参加料：地区ごと (昼食付) 会員 700 円、学生会員 500 円、一般 1000 円、ただしお申込みと同時に前納
- ② 定 員：各地区 50 名 申込順に締切
- ③ 乗 物：観光バス
- ④ 申 込 先：土木学会北海道支部事務局 (札幌市南 1 条西 2 丁目 勸銀ビル 5 階 電話 25-7038)
- ⑤ 締切期日：開催日の各 3 日前
- ⑥ 主 催：土木学会北海道支部・土質工学北海道支部

関東支部行事案内 (郵便番号 160 東京都新宿区四谷 1 丁目 土木学会総務課内)
電話 (03) 351-4133

(1) 「東京外環状線」見学会

◀ 11 月 28 日 (金) ▶

東京周辺の鉄道輸送の改善を図って、東京外環状線の建設が進められていますが、そのうちの京葉線多摩川トンネルは、わが国で最初の本格的な沈埋函工法による河底トンネルであり、武蔵野西線多摩川橋梁は、ディヴィダーク工法による 3 径間連続げた (最長スパン 80 m) の鉄道橋としてはわが国最長のもの、また、東村山トンネル ($l=4k380$ m) は、この付近のラーメンボックス トンネル延長 10 km のうちの一部であります。

いずれも一見に価するもので、この見学会にふるって参加されるよう、ご案内いたします。

1. 日 時：1969 年 11 月 28 日 (金) 9.40～17.00
2. 集 合：国電京浜東北線川崎駅前 (海側) 手小荷物扱所横 9.40 集合
3. 見学内容：10.00～11.40 京葉線多摩川河底トンネル～11.40～12.30 昼食 (鉄道公園塩浜建設所)～12.30～15.00 武蔵野

西線ルートおよび多摩川橋梁～15.00～17.00 武蔵野西線ルートおよび東村山トンネル

4. 解散：国電中央線国分寺駅 17.00 解散
 5. 定員：50名
 6. 参加費：800円（貸切バス代および昼食代を含む）
 7. 申込み：勤務先、氏名、連絡先を明記して、参加費を添えて、土木学会関東支部あてお申込み下さい。参加券をお送りします。
- 満員になり次第締切りますから、早目にお申込み下さい。

(2) 「土留工法」講習会

◀ 12月3日(水) ▶

連続壁工法およびアースアンカー工法による土留についての講習会を開催いたします。多数の参加を望みます。

1. 日時：1969年12月3日(水) 9.30～15.50
 2. 場所：発明会館ホール（東京都港区芝西久保明舟町17 地下鉄虎ノ門下車）
 3. 定員：300名
 4. 参加費：2000円（テキスト代を含む）
 5. プログラム

9.30～10.50	①国鉄東京地下駅における連続地下壁について	国鉄東京第一工務局 草野 一人
11.00～12.00	②都営地下鉄6号線白山シールド基地における地下壁の計画について	東京都交通局 黒川 博重
13.00～14.20	③営団地下鉄9号線代々木公園におけるアースアンカー工法について	帝都高速度交通営団 安藤正人 和田 一郎
14.30～15.50	④横浜市鶴見川河口の重油タンク基地における連続地下壁について	(株)大林組東京支店 坂本 義雄
 6. 申込み：勤務先、氏名、連絡先を明記して、参加費を添えて、土木学会関東支部あてお申込み下さい。参加券・テキスト引換券をお送りします。
- 満員になり次第締切りますから、早目にお申込み下さい。

中部支部行事案内 (郵便番号 450 名古屋市 中村区 笹島町 1-18 名古屋鉄道管理局施設部 工事第1課内 電話 052-551-811 内線 266)

昭和44年度第2回見学会

◀ 9月19日(金) ▶

1. 日時：1969年9月19日(金)
2. 見学先：三重県君ヶ野ダム（雲出川総合開発ダム）築造工事
ダム諸元 形式 越流型直線重力式コンクリートダム（堤高73m/堤頂長325m/堤体積356000m³）
3. 集合場所：国鉄紀勢本線津駅前 10.00
4. 行程：10.10 津駅前出発～11.40 君ヶ野ダム現場着～昼食・工事概要説明・現場見学（約2時間50分）～14.30 君ヶ野ダム現場出発～16.00 津駅前解散
5. 定員：50名
6. 会費：300円
7. 申込方法：9月6日(土)までに中部支部へ会費をそえてお申込み下さい。

関西支部行事案内 (郵便番号 537 大阪市 東成区 中道元町 1丁目 149番地) 電話 06-981-2510, 振替口座 大阪 82599 番)

(1) 琵琶湖周辺の諸問題に関する講演会

◀ 10月24日(金) ▶

共催：土木学会関西支部：滋賀県建設協会

1. 日時：1969年10月24日(金) 13.00～17.00
2. 場所：大津市厚生会館・電話大津 07755-23-2787 大津市京町4丁目3番28号 県庁東側滋賀県警本部前
3. 題目と講師：

13.00～13.05	開会挨拶	土木学会関西支部長 野 瀬 正 備
13.05～14.05	① 琵琶湖と淀川の治水について	建設省琵琶湖工事事務所長 渡 辺 重 幸
14.10～15.10	② 琵琶湖周辺の交通について	京都大学工学部教授 工博 佐 佐 木 綱

15.15~16.15 ③ 湖西線の建設について 日本鉄道建設公団大阪支社湖西線部第2課長 森 野 亮 宏
 映画：16.25~16.55 明日の滋賀 16 ミリカラー 25 分
 16.55~17.00 閉会挨拶 滋賀県建設協会運営委員長 鈴 木 秀 輔

4. 定 員：200 名

5. 聴 講：無料，来聴歓迎

(2) 講習会「土木工事における土中水のあつかい方」 ◀ 11月25日(火)~26日(水) ▶

主 催：土木学会関西支部

1. 日 時：1969年11月25日(火)，26日(水) 9.30~16.30

2. 場 所：大阪科学技術センター8階大ホール 電話大阪(06)443-5321

大阪市西区靱1丁目118番地(地下鉄3号線信濃橋下車北へ150m靱公園北東角)

3. 題目と講師：

第1日(11月25日)

9.30~10.30	① 土中の水理	土木学会関西支部長	野 瀬 正 儀
10.30~11.30	② 井戸の水理と揚水試験法	大阪府立工業高専助教授	工 修 佐 藤 邦 明
11.30~12.00	質疑応答	岐阜大学工学部助教授	工 修 宇 野 尚 雄
13.00~14.00	③ 広域地下水の開発と規制工法	京都大学工学部教授	工 博 松 尾 新 一 郎
14.00~15.00	④ トンネル工事における湧水対策	国鉄山陽新幹線工事局次長	高 山 昭 昭
15.00~16.00	⑤ 地下水位低下工法	京都大学工学部助教授	工 修 河 野 伊 一 郎
16.00~16.30	質疑応答		

第2日(11月26日)

9.30~10.30	⑥ 地盤の流動化現象とその防止対策	神戸大学工学部教授	工 博 谷 本 喜 一
10.30~11.30	⑦ 路床路盤の含水状態と支持力特性	名古屋大学工学部助教授	工 博 植 下 協
11.30~12.00	質疑応答		
13.00~14.00	⑧ 雨水の流出と水収支の解析法	京都大学防災研究所教授	工 博 石 原 安 雄
14.00~15.00	⑨ 土石流の発生機構について	大阪府立工業高専助教授	大 同 淳 之
15.00~16.00	⑩ 山腹崩壊の機構とその予知	京都大学農学部助教授	農 博 武 居 有 恒
16.00~16.30	質疑応答		

閉会挨拶 土木学会関西支部幹事長 岡 田 清

4. 定 員：300 名(先着順)

5. 参加費：会員 1500 円(テキスト代を含む)

ただし講習会当日は 2000 円となりますので、期限内に前納して下さい。非会員 2000 円(テキスト代を含む)

6. 申込期限：1969年11月10日(月)

7. 申込方法：参加希望者は勤務先，連絡先，氏名および会員の種別を明記(様式随意)し，上記参加費を添えて土木学会関西支部へお申し込み下さい。

参加者には参加証をお送りしますから当日は必ずご持参下さい。参加証のない人は入場をお断りします。

注：都合により講師の順序に変更があるかも知れませんのでご了承下さい。

(3) 若い会員懇親パーティ(第2回) ◀ 11月25日(火) ▶

若い会員相互の親睦をはかりたいと存じますので，多数ご参加のうえ，自由なご発言をお待ち申し上げます。

1. 日 時：1969年11月25日(火)17.00より予定(講習会「土中水のあつかい方」第1日終了後)

2. 場 所：大阪科学技術センター6階 603, 604号 電話大阪(06)443-5321

大阪西区靱1丁目118番地(地下鉄3号線信濃橋下車北へ150m靱公園北東角)

3. 参加者資格：39才未満の土木学会会員

4. 定 員：50名(先着順)

5. 参加費：無 料

6. 申込期限：1969年11月10日(月)

7. 申込方法：参加希望者は勤務先，連絡先および氏名を明記(様式随意)して土木学会関西支部へお申し込み下さい。参加証をお送りします。

(4) 学 生 見 学 会

1. 参加者資格：土木学会学生会員 ただし申込期限までに入会手続のすんだものおよび大学院学生の正会員も有効

2. 参加費：100 円
3. 定 員：各回 100 名
4. 申込要領：参加希望者は学校名、氏名、参加回名（第1回、第2回、第3回の別）および 集合場所（A班またはB班、第3回は不要）を明記し、参加費 100 円を添えて各学校の**学生班長**を経由のうえ、申込期限までに土木学会関西支部へお申し込み下さい。
 申込期限内に定員を超過した時は、学校別に人員の割当てをいたしますからお含みおき下さい。
 学生班長は**申込先着順位番号**を付して一括申し込んで下さい。

▶ **第1回学生見学会**（日本万国博会場建設工事見学会）

1. 期 日：1969 年 10 月 18 日（土）
2. 見 学 先：日本万国博覧会協会万博会場建設工事
3. 集 合：（A班） 10 月 18 日 12.35 までに神戸大学土木工学教室
 （B班） " 12.45 までに阪神電鉄本社前（大阪中央郵便局西入，国鉄大阪駅西南）
4. 行 程：12.50 神戸大学発
 13.00 阪神電鉄本社前発 } 14.00 日本万国博覧会協会着，説明，見学，15.30 発——
 ————17.00 阪急六甲駅 着，解散
 ————16.30 国鉄大阪駅
5. 申込期限：1969 年 10 月 3 日（金）

▶ **第2回学生見学会**（山之内浄水場，鳥羽下水処理場見学会）

1. 期 日：1969 年 10 月 25 日（土）
2. 見 学 先：京都市水道局山之内浄水場，鳥羽下水処理場
3. 集 合：（A班） 10 月 25 日 12.45 までに京都大学土木工学教室
 （B班） " 13.05 までに立命館大学土木工学教室
4. 行 程：13.00 分京都大学発——13.20 立命館大学経由——13.40 山之内浄水場着，見学，14.30 発——15.10 鳥羽下水処理場着，見学，16.30 発——17.00 京都駅着解散
5. 申込期限：1969 年 10 月 11 日（土）

▶ **第3回学生見学会**（豊野浄水場，中浜下水処理場見学会）

1. 期 日：1969 年 11 月 8 日（土）
2. 見 学 先：大阪市水道局豊野浄水場，大阪市下水道本部長中浜下水処理場
3. 集 合：11 月 8 日 12.45 までに阪神電鉄本社前（大阪中央郵便局前西入，国鉄大阪駅西南）
4. 行 程：13.00 阪神電鉄本社前発——13.30 中浜下水処理場着，見学，14.50 発——15.40 豊野浄水場着，見学，16.50 発——18.00 国鉄大阪駅着解散
5. 申込期限：1969 年 10 月 24 日（金）

(5) テキスト頒布について

建設工事における騒音，振動の調査報告書（騒音振動委員会編）	頒価	200 円	送料	45 円
公害振動測定法（案）	"	無 料	"	35 円
騒音振動公害	"	1000 円	"	100 円
工 程 管 理（演習問題解答付）	"	1000 円	"	100 円
工事の安全対策	"	700 円	"	80 円
近畿開発と大型土木プロジェクト	"	400 円	"	60 円
シールド工法研究会資料（地下鉄シールドの問題点 シールド工事施工上の問題点の2点1組）	"	100 円	"	55 円
水理学，水文学における最近の進歩	"	1000 円	"	100 円
土木構造物の振動と安全性	"	1000 円	"	80 円
構 造 工 学	"	350 円	"	80 円
建設工事と高分子材料	"	200 円	"	60 円

上記テキストご希望の方は頒価に送料を添えて土木学会関西支部（振替口座利用）へお申し込み下さい。

(1) Twelfth Conference on Coastal Engineering (第12回海岸工学会議)

表記の国際会議が1970年9月13日～18日の期間にアメリカ合衆国ワシントン(Washington, D.C.)のMayflowerホテルで開催されます。論文提出を予定される方は1970年2月1日までに、下記に1頁の論文要旨4部を送って下さい。論文の内容としては、海岸周辺における波、水理現象ならびに砂移動の問題(wave, hydraulic and sedimentation problems in the coastal environment)に関連したものであること、と指定され基礎、土質力学あるいは純然たる構造物の設計に関する問題(foundations, soil mechanics or purely structural design problems)は除外されています。

連絡先: The Secretary, Coastal Engineering Research Council, American Society of Civil Engineers

412 O'Brien Hall, University of California, Berkeley, 94720, U.S.A.

付 設: Proceedings of the Eleventh Conference on Coastal Engineering (全2巻, \$12.00) は下記より発行されました。直接または外国図書取扱店より購入できます。

Technical Publications, American Society of Civil Engineers

345 East 47th Street, New York 10017, U.S.A.

(2) 第6回カナダ岩の力学シンポジウム

期 日: 1970年5月28日～30日

開催地: Ecole Polytechnique (Université de Montréal), Québec, Canada.

論文提出方法: 300語以内のSummaryを1969年11月以前に提出

提出先: Prof. B. Ladanyi, Symposium Chairman, Department of Mining Engineering, Ecole Polytechnique, P.O. BOX 501, Snowdon,

(3) 4th Scientific-Technological Conference "Metal Construction"

上記の会議が、"Development Trends in Metal Construction"を主題にして、つぎのように開かれます。

期 日: 1970年6月下旬

開催地: ワルシャワ

主催者: Engineering Committee of Polane Academy of Sciences

Committee of Metal Constructions of Poland Association of Building Engineers and Technicians

この会議に関心をお持ちの方は、名古屋大学工学部成岡昌夫教授あて照会下さい。

(4) コンクリートのクリープ、収縮、および温度変化に関するシンポジウム

IABSE主催で上記のシンポジウムがつぎのように開催されます。

期 日: 1970年9月14～19日

連絡先: Secretary of IABSE, "Symposium Madrid"

ETH, CH-8006, Zürich (Switzerland)

テ ー マ:

Measurements and observations

(1) field observations

(2) comparison of field results with laboratory results

(3) failures due to creep, shrinkage and temperature changes

Design Provisions

(1) bridge

(2) buildings (high rise; industrial)

Practical methods of analysis

(1) stresses

(2) deflections

会議用語: 英, 仏, スペイン

論文投稿期限: 1969年12月31日

お願い: 本欄は土木に関係の深い国際会議をより多く紹介し、多くの会員が関連分野の国際会議に論文提出または参加できる機会をもつことができるように設けたものです。会員各位に個人的に連絡のあった案内等でも結構ですから国際会議の情報がありましたら下記により海外活動委員会までご連絡下さい。

1. 会議名/2. 開催期日/3. 開催地/4. テーマ/5. 論文提出方法/6. 締切/7. 提出先/8. 連絡先